

## 2 世界の穀物等の価格動向

### (1) 世界の穀物等の価格動向と今後の見通し

#### (2006年以降上昇基調に転じた穀物等の価格)

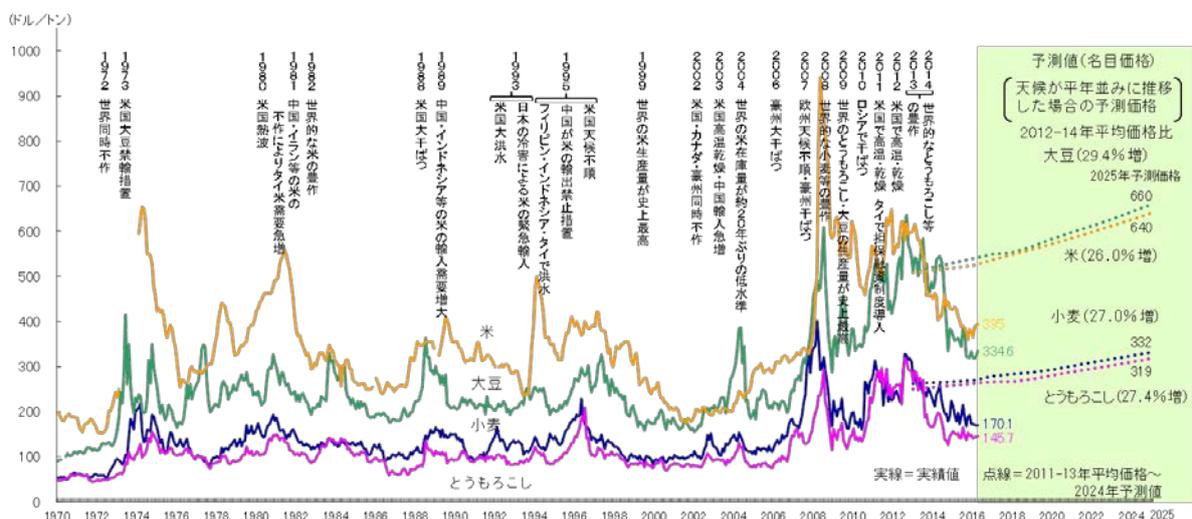
穀物等の国際価格の動向をみると、2006年まで比較的低位で推移していた穀物価格は、2006年の米国や豪州での干ばつ、2007年の欧州東部の干ばつ、欧州西部の長雨、2年連続の豪州の干ばつ等主要な穀物生産・輸出国の相次ぐ不作で、麦類を中心とした供給の引き締めりと、それに伴うとうもろこし等への代替飼料用需要等から、価格が低下していたとうもろこしも含め、各穀物とも上昇に転じた。2008年には、小麦は米国で市場見込みを下回る冬小麦作付面積や、需給の引き締めり等から値を上げ、2月27日に470.3ドル/トン（12.8ドル/bu）と史上最高値を更新し、とうもろこしも米国の輸出需要の拡大や作付面積減少見込み、米国中西部の作柄悪化の懸念などから値を上げ、6月27日に297.1ドル/トン（7.5ドル/bu）と史上最高値を更新した。

その後、価格高騰による作付けの増加や北半球の良好な天候による豊作基調から、価格は低下傾向に転じ、さらに、商品市場からの資金流出、穀物需要の減退懸念などから価格は最高値に比べ大幅に値を下げた。しかし、2006年以前の価格水準に戻ることはなく高値で推移し、2010年にはカナダの天候不順、黒海沿岸諸国の干ばつ、ロシアの穀物輸出禁止等の動きから小麦を中心に高騰。2012年には米国の高温・乾燥により、とうもろこし・大豆の供給懸念から高騰し、2008年の価格を上回る史上最高値を記録した。

#### (低下傾向で推移している穀物等の価格)

とうもろこしや大豆の国際価格は、アジア、アフリカを中心とした人口の増加や、新興経済国の畜産物消費の増加を背景とした飼料用需要が継続しているものの、3年連続の世界的な豊作や、米国を中心にエタノール需要増加の余地が限られること、新興経済国の経済成長の鈍化等から、史上最高値を記録した2012年以降低下傾向で推移しており、引き続き注視していく必要がある。（図 I-9）

図 I-9 穀物等の国際価格の動向と見通し



資料：シカゴ商品取引所、タイ国貿易取引委員会、農林水産政策研究所「2025年における世界の食料需給見通し」

- 注：1) 小麦、とうもろこし、大豆は各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。  
 2) 米の実績値は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。  
 3) 予測値の名目価格は、小麦、とうもろこし、大豆は米国のCPI、米はタイのCPI（いずれもIMFによる）を用いて算定している。

## (2) 2015/16年度の価格をめぐる動向

### (価格の変動は少なく、一定の水準で推移：2015年)

2015/16年の生産量は、対前年度比1.3%減少し24.7億トンと見込まれ、一方消費量は、対前年度比0.3%増加するものの、24.6億トンと見込まれる。生産量は消費量を上回り、期末在庫量は増加する。価格の変動が少ない中で、7月に価格の上昇が見られたが、これは生産地の天候(多雨/干ばつ)を原因としていた。天候が回復することに伴い、価格は上昇以前の水準に回帰した。(図 I-10)

#### <小麦>

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から170ドル/トンまで値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の多雨による作柄悪化懸念・収穫遅延等から210ドル/トン後半まで値を上げた。7月以降、世界全体の供給量が潤沢なこと、米国での収穫進展等から160ドル/トン台後半まで値を下げたものの、9月以降、黒海沿岸地域や豪州での乾燥懸念等から190ドル/トン台前半まで値を上げた。11月以降、米国産冬小麦の作柄改善見込み等から値を下げ、12月末の価格は170ドル/トン台前半となった。(図 I-10)

#### <とうもろこし>

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から130ドル/トン台後半まで値を下げたものの、6月中旬以降、多雨による作柄低下懸念等から170ドル/トン台前半まで値を上げた。7月中旬以降、米国中西部での天候回復から130ドル/トン台後半まで値を下げたものの、9月以降、世界の期末在庫の引き締め見込みから、値を上げた。11月上旬以降、中国の在庫大幅引上げや米国の単収見込み引上げによる需給緩和観測等から値を下げ、12月末の価格は140ドル/トン台前半となった。

(図 I-10)

#### <大豆>

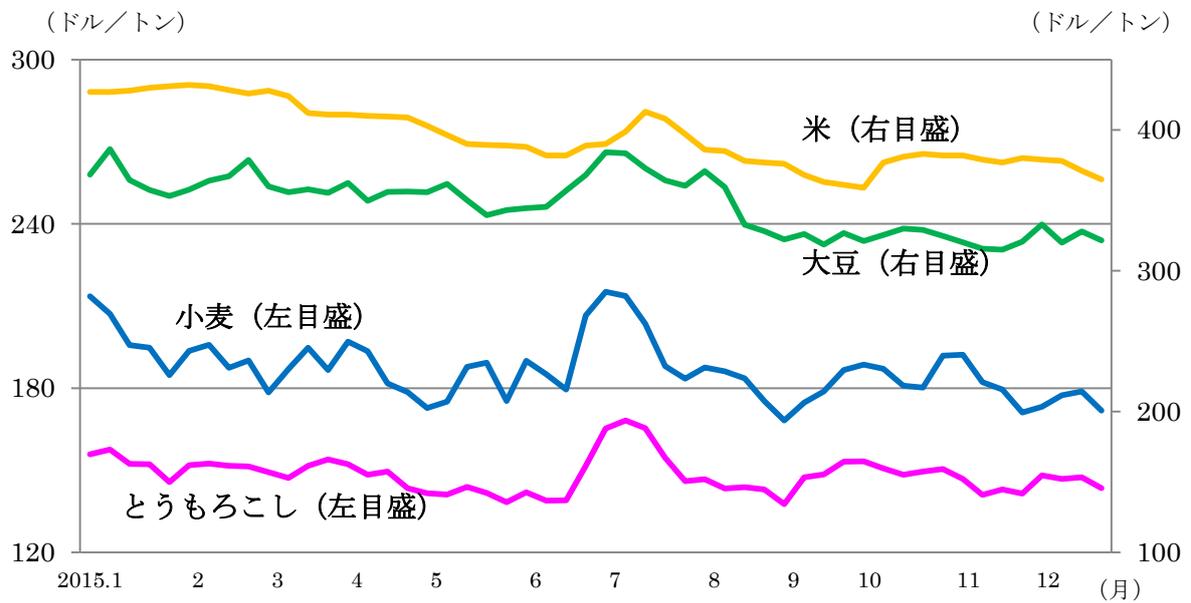
2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻した。5月中旬以降、米国の作付進展等から330ドル/トン台後半まで値を下げたものの、6月上旬以降、米国中西部の一部で頻繁な降雨による作付遅延により380ドル/トン台後半まで値を上げた。7月中旬以降の天候回復、8月中旬以降の中国の輸入減退懸念等により、320ドル/トン台前半まで値を下げた。10月中旬、堅調な米国産の輸出需要から330ドル/トン半ばまで一時的に値を上げたものの、12月末には320ドル/トンとなった。(図 I-10)

#### <米>

2015年1月以降、前年から引き続くタイの政府在庫放出から、6月には380ドル/トン台まで値を下げた。タイの干ばつによる供給不足懸念から、7月半ばには410ドル/トン前後まで値を上げたものの、その後のタイの更なる政府在庫放出から9月下旬には360ドル/トン前後まで値を下げた。10月以降、

フィリピン、インドネシアの輸入見込みから一時 380 ドル/トン台まで値を上げたものの、11 月下旬以降、インドでの収穫の進展等から値を下げ、12 月末には 360 ドル/トン台半ばとなった。(図 I-10)

図 I-10 穀物等の価格の推移



資料：大豆、小麦、とうもろこしは、シカゴ商品取引所（CBOT）の期近価格、米はタイ国家貿易取引委員会公表価格（うるち精米 100% 2 等）をもとに、農林水産省にて作成。